

センター事務室からのお知らせ

新任教員研修会／TA研修会開催のお知らせ

学習支援・教育開発センターでは、2017年度の新任教員向けおよびTA向けの研修会を開催します。
対象者以外でも、本学教職員であれば参加可能ですので、ご希望の場合は学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。また、研修会の内容は、後日ホームページでも公開予定ですので、あわせてご覧ください。

新任教員研修会	TA研修会
日時 4月2日(日)13:00～16:25	日時 4月4日(火)12:00～12:45 4月5日(水)12:00～12:45 4月7日(金)18:30～19:15
会場 今出川キャンパス：寧静館5階会議室	会場 今出川キャンパス：良心館ラーニング・コモンズ 京田辺キャンパス：恵道館201番教室
内容 ・ガヴァナンス、意思決定の仕組み ・グローバル化の取組 ・教育活動 ・学生支援体制	内容 ・TA制度、TAの心得 ・TAの事務手続き

※受講者全員に「受講証明書」を発行いたします。
TAの研修会参加確認の目安にさせていただき、ご自由にご活用ください。

※各研修会の詳細については、本センターのホームページをご参照ください。

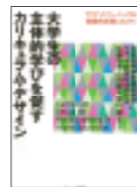
お知らせのページ <http://clf.doshisha.ac.jp/information/information.html>

BOOKS 新着図書情報

学習支援・教育開発センターでは、大学改革やFD関係の図書資料を収集し、専任教職員の方に事務室で閲覧していただけるようにしています。貸出も可能ですので、センターに直接お越しになるか、ホームページ掲載の所蔵図書資料一覧をご覧ください、ご希望の資料があればメールまたはお電話でご連絡ください。学内便でお届けします。



質保証時代の高等教育(続)
山本 真一(著)
ジアース教育新社
2016.11
ISBN: 978-4-8637-1391-8



大学生の主体的学びを促すカリキュラム・デザイン
日本高等教育開発協会 / ベネッセ教育総合研究所(編)
佐藤 浩章 山田 剛史 樋口 健(編集代表)
ナカニシヤ出版
2016.6
ISBN: 978-4-7795-1061-8

*センターで所蔵した方が良いと思われる書籍等がありましたらご推薦ください。
下記の「図書資料のご案内ページ」よりご覧ください、ご活用ください。

図書資料のご案内ページ <http://clf.doshisha.ac.jp/books/list.html>

Column 大学教育の今「大学入学準備講座」—独自の高大接続—方策として—

2017年1月18日全国私立大学FD連携フォーラム(JPFF)の懇談会が、東京会場である同志社大学・東京サテライトと関西会場の今出川キャンパス・寧静館会議室を結んで開催されました(今年度本学は関西地区幹事校を務めています)。当日は「3つのポリシーの運用について」と「高大接続について」という2つのテーマで、参加者(東京40名、関西19名)がいくつかのグループに分かれて関連な意見交換を行いました。

「高大接続について」は、各大学が入学前教育やリメディアル教育の取組みを紹介する中で、本学の「大学入学準備講座」は独自の取組みとして関心を惹きました。本学の「大学入学準備講座」は学内高校・一般高校生を対象とし学部選択(ミスマッチを防ぎ、中退者も防ぐ目的)に寄与するべく、すでに10年以上継続してきた試みです。今後は入学センターが担当する模擬授業や出前講座などと連携しながら、再策定された3つのポリシーを意識した講座内容へと充実を図り、高大接続の一方策として更に発展させていきたいと考えています。

学習支援・教育開発センター所長 大島 佳代子



「シーエルエフ レポート Vol.26」
同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日: 2017年3月30日 Tel. 075-251-3277 Fax. 075-251-3025
発行者: 同志社大学 学習支援・教育開発センター E-mail. ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp
京都市上京区今出川通烏丸東入 明德館 1F <http://clf.doshisha.ac.jp/>

CLF

同志社大学
学習支援・教育開発センター レポート
REPORT
Center for Learning support and Faculty development report

2017.3
vol. **26**

CONTENTS

01 P2-P4

各学会活動報告

- ・FD支援部会
- ・大学院教育検討部会
- ・学習支援検討部会

02 P5-P7

開催報告

- ・教育方法・教材開発成果報告会

ラーニング・コモンズ運営状況

- ・エリア別利用状況
- ・学習相談
- ・コモンズカフェ

03 P8-P10

各学部・研究科・センターFD活動報告

学外FD企画参加記

2017年度 教育方法・
教材開発費 採択テーマ

FD関連企画のご案内

04 P11-P12

2016年度「大学入学準備講座」開催報告

センター事務室からのお知らせ

BOOKS 新着図書情報

Column 大学教育の今

各部会活動報告

FD 支援部会

2016年度のFD支援部会は事業計画として、①FD活動の検証と次期計画の検討、②「大学入学準備講座」の企画、③FDに関する意識高揚活動の実施、④その他(検討を必要とする各種課題)の4項目を掲げました。

①「FD活動の検証と次期計画の検討」については、センターが担う取組みに関してPDCAサイクルを適切に機能させ、現状のFD活動を、各学部・研究科・センターにおける自己点検・評価体制に役立てられるように再点検を行いました。具体的には、「教育方法・教材開発費制度」に、部会委員による点数評価を導入し、A区分・B区分の各基準値を設定し、審査方法を変更しました。「遠隔講義等の実施に係るマルチメディア教材作成支援制度」についても、今年度から、明確化した査定基準即した運用を開始しています。「教育開発調査活動費制度」を利用した学外企画参加者からのフィードバックの実質化を図り、全学的な視点から新しい教育システムの開発、教育効果測定方法の開発、教育方法の改善について情報提供をしていただき、企画立案に役立てるようにしました。学修成果の可視化(教学IR)の取組みとしては、今年度から「キャンパスライフに関するアンケート調査」をもとにパネル調査分析を始めました。パネル調査は、本学特有の教学改善の重要課題、改善成果を測る指標、有効な改善手法を探るための有効なデータとして期待されます。また、各学部・研究科を訪問しての調査結果のフィードバックの際、当センターが設定した分析テーマに加えて、各学部・研究科のリクエストに応じた分析テーマでFD講演会を実施しました。

②『「大学入学準備講座」の企画』については、今年度の本講座の実施状況をふまえ、現在、学内高中心の取組みを一般高校へ広く展開した場合の課題や問題点を整理しています。学内関係部署や他企画との連携強化と情報共有の仕組みを構築していく過程で、3ポリシーを意識した模擬授業や講座の開催企画や実施などに発展させていく予定です。

③「FDに関する意識高揚活動の実施」については、各学部等で実施しているFD活動の内容を他の学部等に情報提供するため、本センターのニュースレター(CLF report)を年2回発行しています。2017年3月には、大阪府立大学の高等教育推進機構・高等教育開発センターから畑野快氏を招き『3つのポリシーと学修成果の可視化-内部質保証システムの構築に向けて-』をテーマとしたFD研究会と、京都外国語大学 マルチメディア教育研究センターの村上正行氏とシステムベンダー2社を招いた第3回授業デザイン研究会「ICTを活用した授業デザイン」を開催し、学内教職員の情報共有とディスカッションを目的とした企画を実施しました。

④第7回部長会(2016年5月26日開催)で、「学校教育法施行規則の一部改正と3つのポリシーの再策定について」報告があり、学長より示された方針のもと、3つのポリシーに一貫性・整合性を持たせる再点検・再策定作業を行いました。すでに作業は終了し、2017年度から公開する予定です。

以上の本部会事業計画の遂行につきましては、今年度も委員の皆様から多くのご意見を頂戴致しました。委員の先生方をはじめ、皆さまのご協力とご支援に改めて感謝申し上げます。

キャンパスライフに関するアンケート調査について

ーパネルデータからみた「愛校心の変化」ー

「キャンパスライフに関するアンケート調査」では、調査協力依頼文のなかで、調査対象者である学生に対して調査の目的や計画を説明し、任意で学生IDの記入を求めています。この学生IDをもとに、2013年度1年次調査と2015年度3年次調査を併せたところ、2013年度生について1518ケース(人)のパネルデータを構築することができました。今回のレポートでは、この2013年度生パネルデータを用いて「愛校心の変化」を分析事例として、パネルデータの特長についてご紹介します。

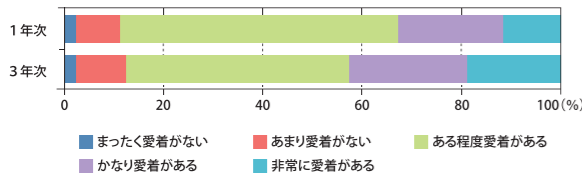


図1: 調査年次別にみた2013年度生の愛校心

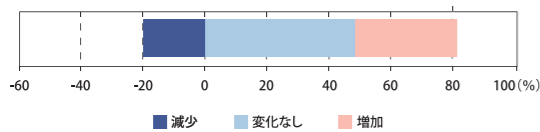


図2: 愛校心の変化

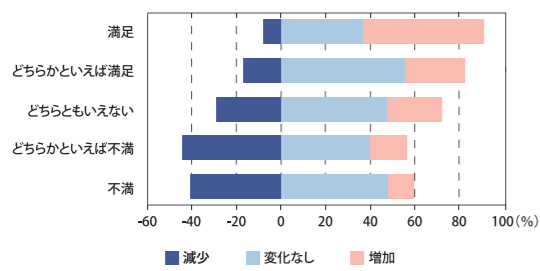


図3: 3年次終了時点での教育全般に対する満足度と愛校心の変化の関係

※「キャンパスライフに関するアンケート調査」では、「大学に対する愛着」の度合いを尋ねています(2013年度1年次調査: Q21, 2015年度3年次調査: Q24)。今回の分析では、愛校心の強弱をあらわす指標として、「大学に対する愛着」の度合いを採用します。

【集計・分析: 菅澤 貴之(学習支援・教育開発センター 准教授)】

大学院教育検討部会

2016年度の大学院教育検討部会では、①大学院共通科目の展開方法の検討、②TA制度(運用の適切性)の再点検、③大学院教育充実のための情報提供と意見交換、④その他(検討を必要とする各種課題)の4点を事業計画として挙げました。

①「大学院共通科目の展開方法の検討」は、今年度で3年目となる継続課題です。大学院の多様化した学生を対象に何か共通の科目が設置できないだろうかという提案から議論を始めましたが、学問の特殊性ということもあり、横断的な共通科目の設置は厳しいのではないかと意見が大勢を占め、過去、議論がなかなか進みませんでした。そこで、今年度は倫理教育についてはその必要性を共有していることから、研究科横断的な研究倫理科目の設置に向けて検討しました。基本的・プリミティブなものから同社社の特性を出したようなものまで含めて段階的な検討を行いました。検討の成果は、本部会から大学執行部へ「提言」として提出致しました。

②「TA制度(運用の適切性)の再点検」も昨年度からの継続課題です。TA業務を行う大学院生のTA研修会参加の実質化を後押しすることを目的に、2016年度TA研修会では受講証の発行を試行実施し、英語版のTAリーフレットを発行しました。現在のTA制度や研修制度の効果を検証するために、2015年度に実施した「TA業務に関するアンケート調査(教員版・学生版)」の分析し、制度の再点検を行いました。TA業務に関するアンケート調査結果の一部は、CLF report Vol.24のP3(2016年3月号)に掲載していますが、今年度は所属(文系/理系)別にアンケート結果を再分析しました。事務局では、大学院生のニーズを踏まえて、次年度から、ラーニング・アシスタント(LA)とティーチング・アシスタント(TA)の交流会「大学院生ランチタイム交流会(仮)」を企画しています。LA業務との共通点や学部学生に対する授業外学習での助言方法、TA経験の相談業務への活かし方をお互いに情報提供することで、現役TAが今後、授業担当の教員に各種提案していけるような企画と位置づけています。今後、「授業で活躍できる大学院生の育成や能力向上、成長を促すTA研修制度や教育プログラムの検討」をしていく際に、TA研修会でカバーする範囲、大学院生交流会で期待される範囲、各研究科あるいは各授業担当教員で対応する範囲を整理する予定です。

③「大学院教育充実のための情報提供と意見交換」については、各研究科における取組の紹介や、文部科学省の施策、中央教育審議会大学院部会における議論の紹介等、大学院教育に関する情報提供を行いました。なかでも、中央教育審議会大学分科会大学院部会(第80回)における大学院教育の在り方の議論(3つの論点: ①専門職大学院にかかる検討内容、②理工人材の育成、③ポストリーディング大学と位置づけられている卓越大学院構想)について情報共有を行いました。

④「その他(検討を必要とする各種課題)」については、学内で現在検討中の諸課題、特に学長から示された2016年度に重点的に取り組む課題や、「同志社大学ビジョン2025」を基本とした中期行動計画の実現に向けて、センターが関わる部分の内容の精査や関連事項の検討を致しました。第7回部長会(2016年5月26日開催)で、「学校教育法施行規則の一部改正と3つのポリシーの再策定について」という報告があり、学長から方針が出され、大学院課程もAPを策定し、3つのポリシーの一貫性・整合性を図るために再点検作業を行いました。3つのポリシーは2017年度から公開の予定です。

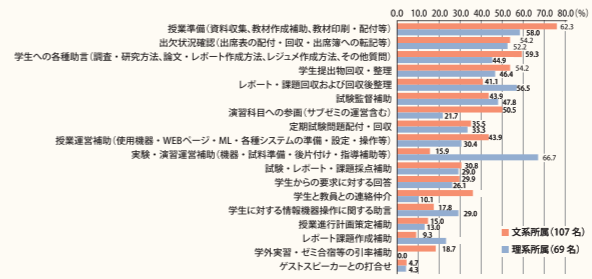
今年度は、検討グループでの議論をはじめ、委員の先生方にはご多忙な中部会運営にご協力いただきましたことに改めて御礼申し上げます。また、ご協力頂きました本学関係部署の皆さまにも心より感謝申し上げます。

TA業務に関するアンケート調査の再分析について

今回は所属(文系/理系)別にアンケート結果を再分析してみました。

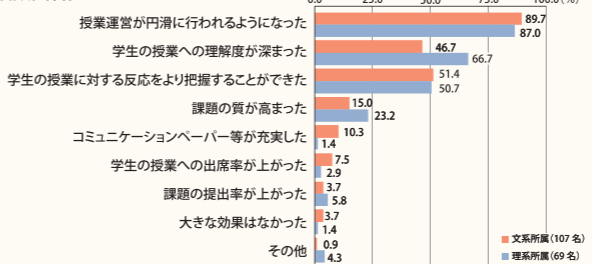
教員版
【調査方法】Web上でのアンケート 【対象者】本学専任教員(798名)
【実施時期】2015年7月28日～9月30日 【回答数】250名(回答率: 31.0%)

○現在行っているTAに課している業務の内容(複数回答)



文系所属の教員は「授業準備」、「学生への各種助言」、理系所属の教員は「レポート・課題回収および回収整理」、「実験・演習運営補助」、「TA制度のルールや実務的な説明」を課していることがわかります。

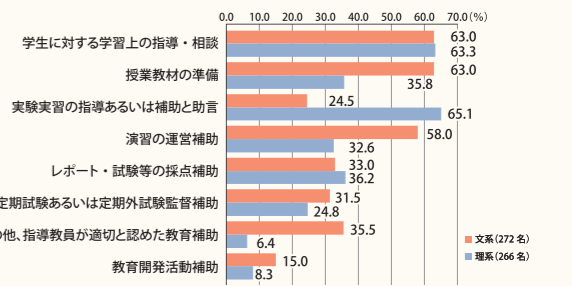
○TAを配置したことで、授業のどの点が改善されたと思いますか?(複数回答)



文系所属の教員は「コミュニケーションペーパー等が充実した」、「学生の授業への出席率が上がった」が多く、理系所属の教員は「学生の授業への理解度が深まった」、「課題の質が高まった」が多い回答となっています。

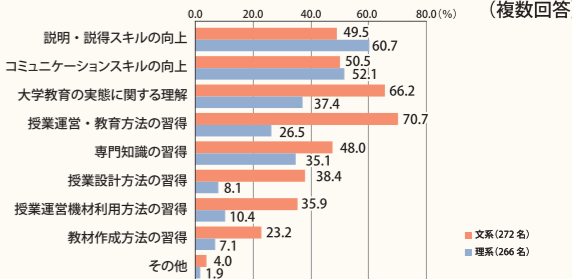
大学院生版
【調査方法】Web上でのアンケート 【対象者】本学大学院生(2,338名)
【実施時期】2016年1月22日～2月5日 【回答数】538名(回答率: 22.5%)

○TAの役割について果たせたと思うもの(複数回答)



文系院生は「授業教材の準備」、「その他、指導教員が適切と認めた教育補助」、理系院生は「実験実習の指導あるいは補助と助言」をおこなっていることがわかります。

○直近1年間のTA経験から学び、将来について役立つと思えること(複数回答)



文系院生は「大学教育の実態に関する理解」、「授業運営・教育方法、専門知識、授業設計方法、運営機材利用方法、教材学生方法の習得」が多く、理系院生は「説明・説得スキルの向上」が多い回答となっています。

2016年度の学習支援検討部会では、①京田辺キャンパスにおける学習支援プログラム(案)の策定、②良心館ラーニング・ commonsの利用動向、学習成果の分析、③良心館ラーニング・ commons提供プログラムの検証と評価、④その他(広報活動の強化、学部間連携の継続等)の4点を事業計画として掲げました。

①「京田辺キャンパスにおける学習支援プログラム(案)の策定」については、ラーネッド記念図書館を主として、京田辺キャンパスに整備される新しい学習環境において、どのような学習支援サービスが必要なのか、今出川キャンパスでの知見や、京田辺キャンパスの教員をはじめ、先行事例のある他大学へのヒアリング結果等をもとに提供プログラムにつき検討致しました。京田辺キャンパスの各学部ヒアリング時の意見・要望をもとに、想定される京田辺キャンパスにおける学習支援プログラムや関連業務がどのような体制で展開できそうか、今出川キャンパスですでに展開しているラーニング・ commonsや他大学の学習支援環境の運営体制をもとにイメージを共有しました。

②「良心館ラーニング・ commonsの利用動向、学習成果の分析」は、2013年度より取得している入退館データの集計の詳細な分析に着手するもので、ピークの利用時間、利用グループのパターンなどについて分析を試みました。今後は、授業開講数や課外活動との相関分析も検討しています。また、良心館ラーニング・ commonsの利用者に対するフォトダイアリー調査も実施しました。本調査の実施目的は、良心館ラーニング・ commonsで協同学習を行っている学生を対象に、相互の学び合いの実態を明らかにすることで学生の成長を把握することにあります。同時に、練達したラーニング・ commons利用者の利用実態を明らかにすることを通じて、現在のラーニング・ commonsの改善点を探り、今後の運営に資することも可能です。利用学生の学習スタイルの可視化とそこから読み取れるパターンの抽出を試行し、この結果とこれまで良心館ラーニング・ commonsで取得してきたデータを重ね合わせ、複合的に学習成果を検討する材料としていく予定です。

③「良心館ラーニング・ commons提供プログラムの検証と評価」は、アカデミックサポートエリアでの学習相談の数と相談の分類、相談時の対応方法の見直しを行いました。学習相談については、授業における課題をきっかけに相談に来る学生が多いこともあり、次年度はLAとTAとの交流会を企画し、学部学生の授業外学習の助言、相談業務を担当する中で、TAの経験がどのように活かされているのか、気づきやエピソードなどをTAに情報提供することで、現役TAが授業担当の先生等にフィードバックできるような大学院生同士の連携(情報共有)のコミュニティ(交流の場)を設けたいと考えています。また、アカデミックスキルセミナーの秋学期に実施しているプログラムについて、基礎的な内容から応用的な内容に改編を試み、これまでと実施形態を変え、1回30分のレクチャー全3回を1セットとしたプログラムパッケージで提供しました。講義メインではなく、各課題を作成していく過程で、講師からの具体的なフィードバックを希望するニーズを拾い上げることにありましたが、期待度や役立ち度も、まずまずの評価を受けました。

④「その他(広報活動の強化、学部間連携の継続等)」は、学内教職員をターゲットにした広報活動・情報発信を継続し、良心館ラーニング・ commonsの各種プログラムの利用促進と学習効果の向上を図るものです。LAが責任編集している広報誌『Commons Press』については、年2回のペースで発行しています。アカデミックスキルセミナーと良心館ラーニング・ commonsの利用案内ツアーのチラシは、新入生向けの入学式配付物に同封してもらい、特に初年次学生への周知を図っています。アカデミックスキルセミナーは、商学部春学期の初年次科目「アカデミック・リテラシー(AL)1」と連携した取組みを行っており、商学部の導入科目運営委員会(導入科目FD部会)において、授業運営に関する意見交換にアカデミック・インストラクターが参加し、次年度もこの連携の取組みは継続する予定です。他学部にとり、授業と授業外学習との連携を深め、学生の学びがより深化するモデルを検討しています。

commons・カフェは、今年度6回開催しましたが、役職者をはじめ、学部だけでなく、研究科やセンターの教員にも協力いただきました。次年度も、京田辺と今出川の交流も念頭に、引き続き京田辺キャンパスの各学部教員にも話題提供してもらい、commons内でのイベントに参画してもらうことで、ラーニング・ commonsの雰囲気や、今後、京田辺ラーニング・ commonsで展開するプログラム運営の検討材料にてもらいたいと考えています。今後の京田辺ラーニング・ commonsで展開するプログラム運営には、今出川キャンパスの各学部の教員にも協力してもらうことで、キャンパス間の交流も図っていきたく考えています。

本年度も、部会運営にご協力いただいた委員の皆さまをはじめ、ラーニング・ commonsの企画にご協力頂きました先生方、および本学関係各部署の皆さまのご支援に心より感謝申し上げます。

教育方法・教材開発成果報告会

学習支援・教育開発センターが設置している教育活動支援制度の一つである「教育方法・教材開発費制度」(B区分)を利用して2015年度に取組まれた教育方法・教材開発についての成果報告会を実施しました。

- テーマ 文系学部生に求められる「高校数学」自学自習プログラム開発
- 日時 12月7日(水) 12:40(2016年度第4回FD支援部会終了後)～13:05
- 会場 今出川キャンパス 至誠館3階会議室
京田辺キャンパス 成心館207会議室(テレビ会議システム利用)
- 発表者 角井 正幸/宮本 大(本学経済学部 教授)

当日は取組担当の先生方にお越し頂き、取組テーマ「文系学部生に求められる『高校数学』自学自習プログラム開発」について、その教育的効果をご説明頂きました。

本取組は、高校在学時に数学の履修経験が少ない学生や数学を苦手とする学生を対象に、e-learningコンテンツとして時間や場所の制約を受けることなく、高校数学に関する基礎的な講義を受講できる環境を整備することを目的に開発されました。

教材の検討にあたっては、科目担当者の意見を踏まえながら、経済学部での学びに必要な単元を選定しており、2次関数(2次関数とグラフ・放物線の方程式、2次方程式、2次関数の最大と最小)、指数(指数と指数関数)、対数(対数と対数関数)、微分(関数の極限、微分係数と導関数、微分の公式、関数の増減と極大・極小)を中心に作成しています。

また、システムの検討にあたっては、科目担当者だけでなく、学生の意見も聴取することで、利用者にとって使いやすい設計となるよう工夫されています。

本コンテンツの開発により、実際にリメディアル教材として活用されているほか、1年次生対象科目の補助教材や自学自習コンテンツとしての役割を果たしています。また、法人内諸学校をはじめとする高等学校に、本コンテンツを紹介することで、本学経済学部で必要とする数学のレベルをあらかじめ伝える手段としても活用されています。

※本コンテンツは、経済学部・経済学研究科オリジナルホームページ上に公開されており、本学経済学部生以外にも、本学他学部生や高校生、高等学校の進路指導担当教員も視聴が可能です。

フォトダイアリー調査について

調査目的 ラーニング・commonsという協同学習の場における大学生の学習実態を可視化するために、全天球カメラを用いたフォトダイアリー法を用いて調査しました。主体的な学びの具体例や特徴などの実態を把握することで、より充実した協同学習の実現や学習施設の運用改善が見込まれます。この問題意識に立ち、学生がどのように学んでいるかを明らかにするために、学習の様子をカメラで記録し、インタビュー調査を行いました。現在、得られたデータを分析しています。

調査時期 2016年11月から12月 **調査対象** ラーニング・commonsの予約エリアを利用するグループ **調査時期** 4グループ(表1参照)

調査項目 学習時の風景を全天球型カメラにて自動撮影(30秒ごとに1枚) 撮影後、1週間前後に半構造化インタビューを実施

聞き取り項目 グループの構成メンバーの属性、グループ構成理由、利用目的、実際の学習実態、他の学習空間との使い分け、使用した機材、対話の方法、良い協同学習と失敗した協同学習の差違と原因、合意形成のプロセス、ラーニング・commonsの改善案 等

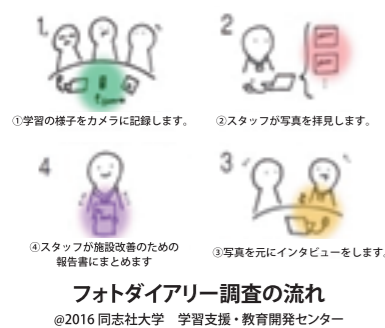
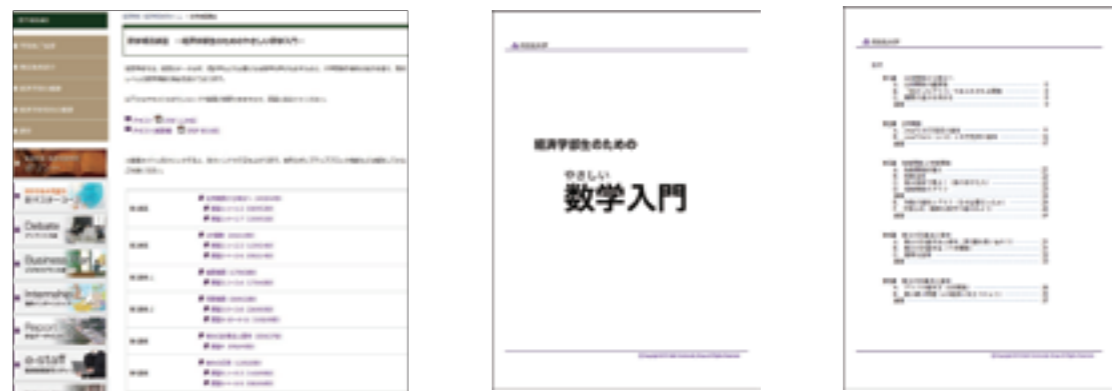


表1.インタビュー対象グループの属性等

グループ	人数	学年	学部等	開催理由	開催頻度	活動内容
A	2	2、3年	人社混在	自主勉強会	週2、3回	試験勉強
B	4	3年	社会科学	ゼミ	週1回	研究コンテスト準備
C	5	3年	社会科学	ゼミ	週2、3回	論文大会準備
D	3	M,D(院生)	人社混在	自主勉強会	週1回	研究進捗報告



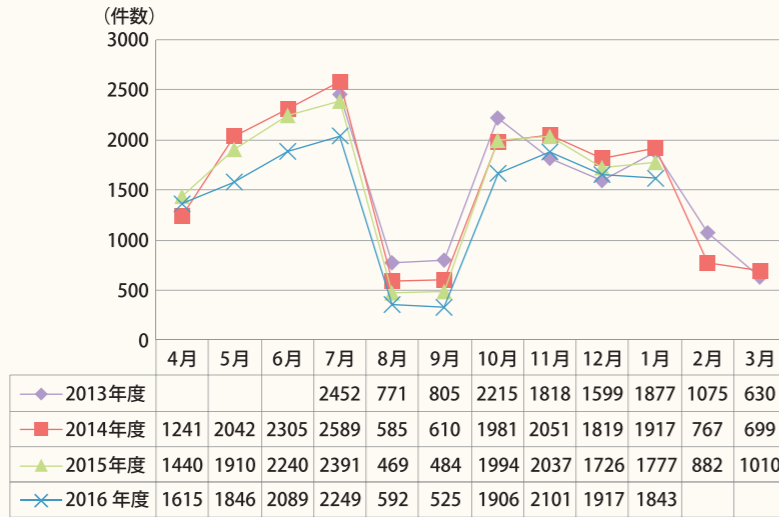
教育方法・教材開発支援費制度の詳細については、P.10をご参照ください。2017年度の採択テーマも紹介しています。

ラーニング・コモンズ運営状況

エリア別利用状況

良心館2階のインフォダイナー、3階のグループスタディールームの各月の利用状況のデータをまとめたのが下のグラフです。インフォダイナー、グループスタディールームともに、春学期と秋学期の授業期間中(試験期間含む)に多く利用されていることが分かります。

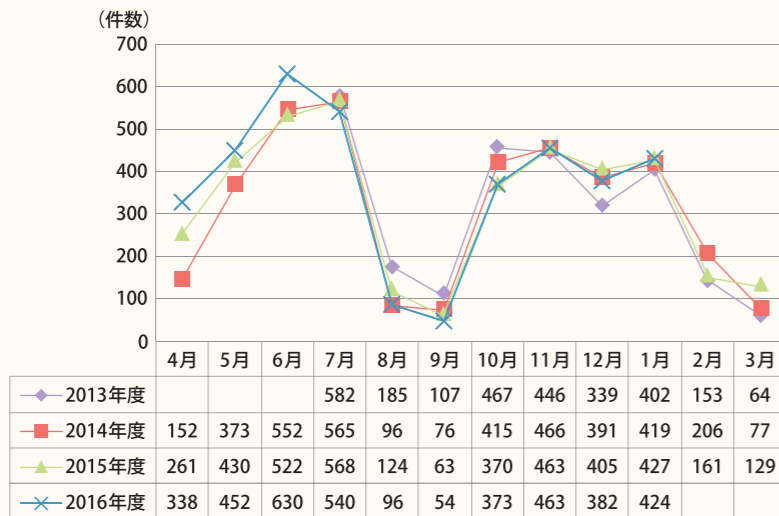
○2階 インフォダイナー利用状況(月合計)



インフォダイナーは全16エリアが予約対象 予約開始は、2013年7月以降



○3階 グループスタディールーム利用状況(月合計)



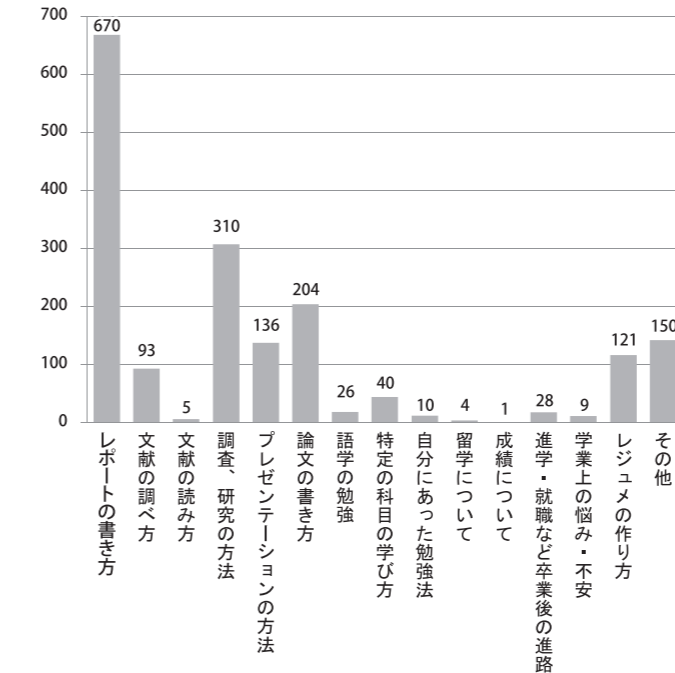
グループスタディールームは5部屋が予約対象 予約開始は、2013年7月以降

学習相談

良心館3階のアカデミックサポートエリアでは、アカデミック・インストラクターやLA(ラーニング・アシスタント)が学生の学習相談に乗っています。2016年度は2017年1月末時点で、相談者延べ1606名、相談件数は1807件となっています。昨年度と同じく「レポートの書き方」、「調査・研究の方法」、「論文の書き方」に関する質問が多くありました。

また、LAが責任編集している広報誌『コモンズプレス』を年に2回(4月と10月)発行し(図参照)、学習相談経験に基づいたレポート執筆やプレゼンテーションに関するアドバイス、グローバルな視野を持つことの意味などラーニング・コモンズ利用者に向けた情報を提供しています。

学習相談の内訳 総件数1,807件 (2016年4月～2017年1月)



コモンズプレス Vol.5 (2016年10月刊行)



コモンズカフェ

2016年度秋学期はコモンズカフェを4回(第18回、第20回、第21回、第22回)、2階グローバルビレッジにて開催しました。今後も多くの先生方にご登壇いただく予定です。

【第20回 京都の伝統産業—その経営戦略と成長の見通し—】

日時: 2016年10月26日(水) 14:55-15:55
 ゲスト: 村山 裕三 教授(同志社大学 ビジネス研究科)

【第21回 ラーメンからみる日米の歴史と文化】

日時: 2016年11月17日(木) 14:55-15:55
 ゲスト: ジョージセキネソルト 准教授(同志社大学 グローバル教育センター)

【第22回 クリスマスのいろは】

日時: 2016年12月19日(月) 14:55-15:55
 ゲスト: 越川 弘英 教授(同志社大学 キリスト教文化センター)

【第18回 18歳からの選挙権】

当初の日程を変更して開催しました。

日時: 2017年1月13日(金) 14:55-15:55
 ゲスト: 大島 佳代子 教授(同志社大学 政策学部)

良心館ラーニング・コモンズの情報は、以下のURLよりご参照ください。

良心館ラーニング・コモンズHP <http://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/>

※学習支援・教育開発センター HP (<http://clf.doshisha.ac.jp/>) からでもアクセス可能です。



各学部・研究科・センターFD活動報告

このコーナーでは、各学部・研究科・センターにおけるFD活動の報告を順次掲載していきます。

キリスト教文化センター

三木メイ

キリスト教文化センターは、同志社大学の徳育の基本となるキリスト教主義教育を全学部の学生対象に行う活動を中心的に担っている部署であり、同志社科目として正課科目を提供するだけでなく、学内礼拝である「チャペルアワー」を両校地でそれぞれ週3回、計6回実施するなど、多様なプログラムを提供している。さらに、春秋各学期にDoshisha Spirit Weekを設定して、同志社の建学精神について学び、知るプログラムも提供している。これらのプログラムを通して、学生がさまざまな視点からキリスト教主義精神や歴史について学び、自らの生き方、考え方を見つめなおしながら、自らの良心を養い育てる基盤を形成する良心教育を行っていくのが最大の目標である。2013年の大河ドラマ「八重の桜」放映以降、同志社科目の受講者が増加傾向にあり、当センター提供科目は専任教員2名以外に現在3名の嘱託講師に担当を依頼している。これらの正課科目と正課外科目を有機的に結びつける方策が近年功を奏し、チャペルアワーの出席者も増加傾向にある。大規模クラスが発生しやすい状況が続いているのでこれを解消する方策を模索中である。これまでの当センター提供科目を全面的に見直し、2017年度から新しい科目名でキリスト教およびキリスト教史のクラスを設置することとした。また、正課外の聖書研究会とバイブル・シェアリングも来年度から正式に開始する。学生たちの主体的な学びと気づきを促す良心教育を、より充実したかたちで実施できるよう努力を重ねている。

グローバル教育センター

Robert William ASPINALL

グローバル教育センター (Center for Global Education (CGE))は、2016年4月に発足し、人文学・社会科学・自然科学の分野をそれぞれ担当する3名の教員が新たに着任した。2016年度は今出川・京田辺両校地において30を超える科目が共通教養科目として提供されたが、CGEの授業は全て英語で行われることから、受講するために学生は一定の語学レベルを必要とする。なるべく多くの学生に受講してもらうため、現在提供されている科目は学生の語学要件によって2つのレベルに分けられている。1つのレベルは、英語を母語とする学生とも議論が可能な、英語能力がすでに十分ある学生の受講を奨めるものである。交換留学生もこれらの科目を受講することができ、共に学ぶ環境を提供している。もう1つは、英語を修得しつつある学生向けに提供されるもので、「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」という転換を目的とするものである。このレベルでは同志社大学に来ている交換留学生をスチューデント・アシスタント(SA)として雇用・配置をすることにより、受講生にコミュニケーション能力を磨く機会を提供するなど、授業に工夫をこらしている。CGEが発足してから1年経過するが、現在カリキュラムや授業内容を振り返り、改善・充実に向け議論を行っているところである。

国際教育インスティテュート

Bruce WHITE

The management of classes, and the submission, grading and returning of papers to and from domestic and international students can present a range of challenges for professors and instructors. For some years now, professors at the ILA have been using the subscription service Turnitin and the on-line class management tool Schoology. Together these tools help to solve a range of problems and provide increased efficiency and ease management and administration tasks. Turnitin allows students and professors to submit, grade and comment on accessed coursework papers on-line. As well as providing the professor with a range of grading and comment tools, Turnitin is particularly useful when students or professors do not happen to be on campus during the submission and grading periods. The system is also very useful for countering plagiarism, and educating students on how to avoid it. Schoology's strengths are in class management, and amongst its many features are the ability to update students on weekly assignments, provide links to relevant reading materials and allow TAs and SAs an easy interface for student-instructor interaction. The ILA instructor experience, class management and administrative efficiency has been improved greatly by having the option to use these tools.

各学部・研究科・センターFD活動費について

学習支援・教育開発センターでは、各学部・研究科・センターレベルでの組織的なFDに関する取組に対し、FD活動費(支援費)の補助を行っています。以下の点に留意していただき、積極的な活用をお願いします。

FD活動費(FD支援費)の使用例

- 卒業時アンケート調査・新入生対象アンケート調査関連費用
- FD関連書籍購入費用 等
- FD講演会・セミナー等開催関連費用
- ※組織の懇親会や親睦会は該当しません。
- 授業評価における専門的知識の提供に対する謝礼

留意事項

- ・教員個人レベルでの研究会、研究会参加費、部会委員としての催しへの参加経費等は「教育開発調査活動費」制度より支出する。
- ・組織代表者への支出の場合、その後のフィードバックの状況(内容)を示す。
- ・補助の対象は非営利活動に限定する。また、文部科学省等の補助事業には使用できない。
- ・補助を希望する場合は、事前に学習支援・教育開発センター事務室に申し出る。
- ・会費※を使用する場合は、本学専任教職員を補助対象とする(学外講師の会費は補助可)。
- ・FD講演会や会合の開催テーマや趣旨について、資料や記録等を提示する。

* 会費について
・研究会開催等の会議費用(昼夜を問わない)は1人あたり単価1,200円(税別)までとする。ただし、夕食時における学外講師(=本学教職員以外)との懇談費用等の場合は1人あたり単価3,000円(税別)までとする。
・会費にアルコールは含まない(会費としての補助は不可)。

ご不明の点は、学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。

学外FD企画参加記

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、FDに関連したセミナーやシンポジウムのご案内をしています。実際に参加された先生にセミナーの様子や感想をお伺いしていますので、今後の参加の参考としてください。

※今後開催予定のFD関連企画はP.10でも紹介しています。

北海道大学高等教育 研修センター講演会

- テーマ 授業準備と運営～学習者の認知・心理的側面から～
- 開催日 2016年11月11日(金)
- 主催 北海道大学高等教育研修センター

スポーツ健康科学部 石倉忠夫 教授

大学教員は授業実践について学ぶ機会が多いとはいえ、過去に受けた授業や同僚の授業などを参考にしながら試行錯誤を重ね続けている教員も少なくない。一生懸命準備をして授業に臨んでも学生の反応が悪かったり、居眠りをされたりしてしまうと、教員のモチベーションにも影響を及ぼす。そこで、学習者が集中できる授業、理解を促す授業を行うための準備や運営をどのようにすればよいのか、という点に焦点を当てた講演会が開催された。講師は認知心理学、教育心理学をご専門に研究されている東北大学の呂本俊亮教授であった。私自身、担当する授業において学生の学習意欲を喚起することが出来ていないのではないかと、あるいは学生のニーズに添えていないのではないかと反省しているところであったため、これ幸いと参加を決めた。

ご講演は呂本教授の研究で得られた知見をご自身の授業で実践されている、非常に説得力のある内容であった。例えば、授業内容を伝えるために考えることとして「伝わらない理由を考える(情報発信の不備、知識のギャップ、主題や要点が不明瞭、言葉だけでは不十分)」「学生の理解の認知プロセスを知る(既有知識の活性化、知識に基づく解釈・推論・精緻化、学習者自身のメンタルモデルの構築)」「学生の理解を支援する方法を工夫する(授業の組み立て、知識の活性化を支援する、メンタルモデルの構築を支援する)」、学生の学習意欲を高めるために「学習意欲を考える」「意欲を引き出すテクニック(驚き、わかる予感、活動させる、教員自身を語る)」「意欲を維持させるテクニック(1コマの授業における意欲の維持、学期を通じた意欲の維持、学生の心を揺さぶる)」、そして授業者自身の気持ちのコントロール法として「伝わるのは授業内容だけではないこと」「非言語的メッセージに気を配る」「ポジティブな気分に従業する」についてヒントを提供してくださった。近い将来、小中高等学校で授業の運営方法が大きく変化する。これに伴い、大学授業の在り方を省みるためにも、このような講習会を積極的に開催すべきであると感じた。

大学生研究フォーラム2016

- テーマ 教員のための表現力向上ワークショップ
経験で終わるな、メタに上げれ!!-わたしのメタラーニング宣言
- 開催日 2016年8月24日(水)～2016年8月25日(木)
- 主催 京都大学高等教育研究開発センター
東京大学大学総合教育研究センター・電通育英会

法学部 木下麻奈子 教授

昨年8月末に二日間にわたって京都大学で開催された2つのプログラムに参加した。近年、大学においてもアクティブ・ラーニングを用いた講義の学習効果の高さが指摘されているが、現場で教えるものとしては、いかに学生の活動経験を抽象的思考に結び付けるかが、大きな課題だと感じていた。この2つのプログラムは、相互に関係する内容では必ずしもなかったが、個人の経験を抽象化し、批判的に捉えることの重要性を考えるためのよい機会となった。

初日のプログラムは、音楽座ミュージカル劇団の団員が、FDの受講者にコミュニケーションの取り方や感情表現の技術を、実践的に教える内容であった。当初はミュージカルの観客という受身の立場にいた受講者が、計算された演出の中で、いつの間にか能動的な演者に変化していくプロセスは圧巻であった。

二日目のシンポジウムでは、大学の研究者や企業関係者によって、メタ認知に関する研究や実践例が報告された。最新の教育学や脳科学の知見を踏まえ、大学生が学習・研究で習得したことを、個別の経験として留めずに、それを一般法則にまで高めて抽象的に理解させることの必要性が強調されていた。

今回のプログラムによって、実践知をメタ・レベルにまで昇華させることの重要性が、FDの受講者の間で共有されたとされる。ただし、それを実際に達成するには、たとえ教える側が様々な教育技術を用いたとしても、個人単位の活動で行うには限界があるとも感じた。とりわけ学生の学習意欲や能力の分散が大きい大規模校においてはなおさらである。各講義を閉じたものとして、個別の知識を講義間で連携・集積して体系化して理解させるようなフレーム・ワークが、今後、策定されることが期待される。

2017年度 教育方法・教材開発費 採択テーマ

本学における授業改善をさらに促進するために、専任教員を対象として、新たな教育方法および教材開発に必要な費用全般を対象とする補助を行う「教育方法・教材開発費制度」を設置しています。

2017年度は、この制度を利用してA区分4件の取組が行われます。

開発テーマ	所属	申請者
A区分(1件あたり税込50万円以下)		
同志社大学アラビア語講義および同志社大学内実施「カイロ大学アラビア語能力検定試験」に対応した教科書の作成	神学部	四戸 潤弥
グローバルキャリアデザイン教育方法と教材開発	政策学部	清水 習 橋本 圭多
日本の国際協力政策に関する大学生用シミュレーション教材の開発	政策学部	木場 紗綾
新島襄著作のデジタル化と新島襄著作検索システムの開発	免許資格課程センター 神学部	原田 隆史 / 佐藤 翔 関谷 直人

※これまでの採択テーマ及び成果報告書(本学教職員のみ閲覧可)は学習支援・教育開発センターホームページ上に掲載していますので、以下のURLよりご参照ください。

教育方法・教材開発費制度のページ <http://clf.doshisha.ac.jp/support/development/materials.html>

※教育方法・教材開発費制度を利用して開発された教材の一部は、本学オープンコースウェア上で公開しています。

同志社大学オープンコースウェア <http://clf.doshisha.ac.jp/opencourse/opencourse.html>

FD関連企画のご案内

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、学内外で開催されるFD関連企画を紹介しています。メーリングリストでの情報配信をご希望の場合は、学習支援・教育開発センター事務室までお知らせください(本学専任教職員を対象とします)。

今後、学外で開催される企画は以下の通りです。その他の企画についても随時お知らせしますので、積極的なご参加をお待ちしています。

研究会・研修会のご案内ページ <http://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html>

開催日程	企画名称	会場
5月27日(土)・28日(日)	日本高等教育学会 第20回大会	東北大学 川内北キャンパス
6月10日(土)・11日(日)	大学教育学会 第39回大会	広島大学 東広島キャンパス
6月16日(金)・17日(土)	New Education Expo 2017	大阪マーチャングイズ・マート(OMM)
8月9日(水)	私立大学情報教育協会 ICTによる教育改善研究発表会	東京理科大学 神楽坂キャンパス
8月21日(月)・22日(火)・23日(水)	日本リメディアル教育学会 第13回全国大会	日本文理大学
9月6日(水)・7日(木)	初年次教育学会 第10回全国大会	中部大学
9月7日(木)	私立大学情報教育協会 教育改革ICT戦略大会	アルカディア市ヶ谷

※上記一覧は予定ですので、開催時期や会場が変更されることがあります。

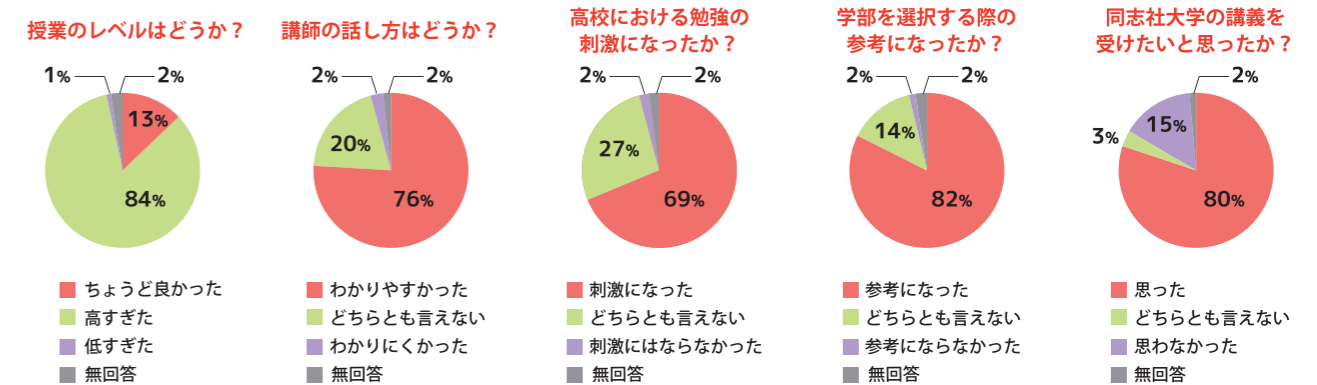
※参加にかかる費用は学習支援・教育開発センターが負担します。

2016年度「大学入学準備講座」開催報告

2005年度より高校生向けに開講している「大学入学準備講座」(大学における必要な学力レベルを教えるための特設授業を提供することで、高校生に正しい学部選択の機会を与えることを目的としている講座)は、今年度も全学部14講座を開講し、48校の高等学校より延べ1461名の高校生および同伴の保護者の方等(高校生1433名、保護者等28名)に参加いただきました。

高校の授業との違いに戸惑いながらも、興味をひく内容に次第に緊張もほぐれ、笑いがこぼれる和やかな場面もありました。また、大学の講義に知的好奇心を刺激された高校生も多く、自ら学ぼうと授業に参加している姿が見られ、大学での授業を体験する良い機会となったようです。

アンケート結果



受講者の声

高校生



- ・高校の授業とは違って、とてもワクワクしました。話を聞けば聞くほど、次から次へと疑問が湧いてきました。大学での勉強により一層の興味を持ちました。
- ・この授業を受けて、大学がどういう場所であるべきか探求心をもつことの大切さがわかりました。
- ・新しい可能性がみちている学部だと思いました。
- ・先生の生徒になると、夢と現実のバランスを学ぶことが出来そうですね。最後におっしゃっていた、学ぶもので思考は作られる、というのは興味深い言葉でした。
- ・少し難しかったけれど、今のままでは大学に入ることができてもついていけないとわかりました。これからがんばろうと思います。
- ・私はまだ高校一年生ですが、今回この講義を受けて、本格的に大学について考えていかなければならないと思いました。

保護者



- ・入学前にこのような講義を受ける機会を作っていただくことはとてもありがたいことです。高校までの学習と大学は異なるので、その感覚を持って入学することは大切だと思います。
- ・30年以上ぶりに大学の講義を受けさせて頂きとても新鮮で、また、あの頃はこんなに楽しく授業を受けていただろうか、と反省しておりました。先生のお話の声もスピードもとてもゆるやかで、温かみがあり、聞いていて癒される感さもありました。
- ・新しい分野の研究を知ることができ、とても勉強になりました。

2017年度も「大学入学準備講座」の開講を予定しています。詳細については、決定次第本センターホームページよりご案内します。

大学入学準備講座のページ http://clf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html



講義を集約した講義録を発行しています。



126本の動画コンテンツが視聴できます。

